

2024 9・10・11

展示案内 ——— vol. 778

# 東京国立博物館 ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS

だ  
あ  
〜  
れ  
だ  
？



10月1日(火)より博物館でアジアの旅  
「アジアのおしゃれ」開催！

今号のイチ押し！

重要文化財 はに わ せい そう じょ し 埴輪 盛装女子



東洋館 10月1日(火)～11月10日(日)

毎年恒例の「博物館でアジアの旅」。  
今年のテーマは「アジアのおしゃれ」です。  
アジア各地の仏像や工芸品、絵画作品にみられるおしゃれな姿や、  
華やかな衣装や装飾品から、それぞれの時代の美や風情、  
遊び心を感じてみてください。



ユリノキちゃん  
東京国立博物館  
公式キャラクター



(拡大図)

コート 濃紺ヴェルヴェット地  
花卉文様金銀糸刺繍

東洋館13室  
インド・ジャイプール マードー・シーン2世着用 19～20世紀

重厚な金属のモール糸と真珠、エメラルドなど宝石をちりばめた、  
マハラジャ(藩主)にふさわしい豪華なコートです。(沼沢ゆかり)



アウラングゼーブ帝立像

東洋館13室  
ビーカーネル派 インド 18世紀後半  
ムガル皇帝のファッションはと  
てもゴージャス。宝石で飾った  
ターバンやアクセサリに目が  
釘づけです。(勝木言一郎)



トーハクくん  
東京国立博物館  
公式キャラクター



三彩女子

東洋館5室  
中国 唐時代・8世紀  
鈴木榮一氏寄贈

にっこり微笑む表情  
と白い花の模様が表  
されたスカートがな  
んとも愛らしい若い  
女性の像です。  
(三笠景子)

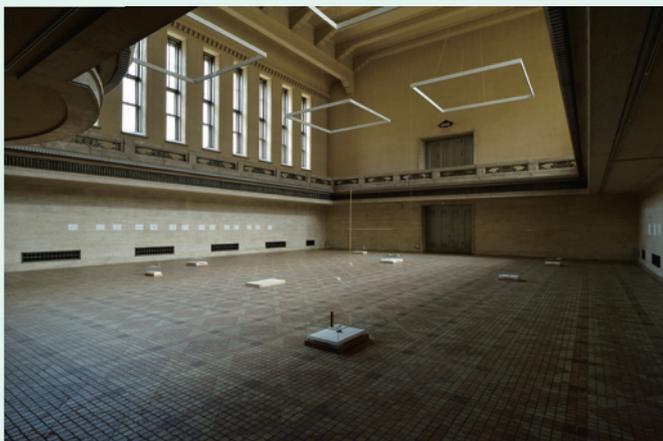
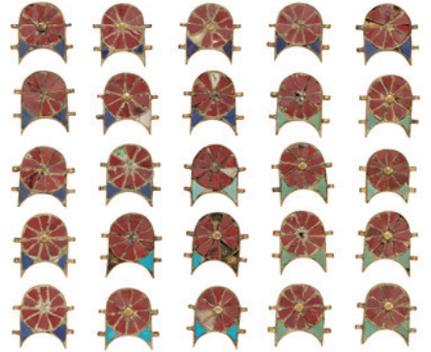
\*期間中、「博物館でアジアの旅 アジ  
たびマップ 2024」を東洋館インフォ  
メーションで無料配布し、当館ウェブ  
サイトでも掲載します。  
\*当館ボランティアが、東洋館のガイ  
ドツアーや構内のアジアに関連する樹  
木を紹介するガイドツアーなどを企画  
しています。  
そのほか、関連イベントを予定してお  
ります。詳しくは当館  
ウェブサイトをご確認  
ください。



婦人頭飾断片

東洋館3室  
伝エジプト、テーベ出土  
新王国時代(第18王朝)・前15世紀

古代エジプトの王妃たち  
はウィッグや頭飾りをつ  
けて、高貴で華やかな雰  
囲気を演出しました。  
(小野塚拓造)



本展第2会場 本館特別5室 展示風景  
撮影：畠山直哉  
太陽の光の具合で大きく表情が変わる

猿形土製品

縄文時代(晩期)・前1000～前400年  
埼玉県さいたま市 真福寺貝塚出土 土製  
撮影：畠山直哉  
太陽の光に照らされる猿。縄文の風景の中を歩くよう



内藤礼

生まれておいで 生きておいで

平成館企画展示室、本館特別5室、本館1階ラウンジ  
～9月23日(月・休) ※事前予約制です。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

本展の第2会場である本館特別5室はさまざまな特別展の会場とな  
ってきましたが、自然光がそそぐ空間で作品をご覧いただくのはじつ  
に数十年ぶりのことです。通常、古美術の展覧会では、作品保存のため  
コントロールされた人工の灯りのもとで展示空間をつくりますが、この  
会場は太陽の光のみが空間を照らします。したがって、その日の天気や  
来場する時間によって室内の様子がまったく違います。太陽がつくる光  
と影により、日々そして時々刻々と変化する「地上の生の光景」をお  
楽しみください。(鬼頭智美)

本展はエルメス財団と共同で企画したもので、9月7日(土)から2025年1月13日(月・祝)まで  
銀座メゾンエルメス フォーラムで開催される同作家個展との連携企画です。  
観覧料：一般1,500円、大学生1,000円  
※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。※東京国立博物館キャンパスメンバーズ会員の  
学生の方は、当日券を500円でお求めいただけます。  
※本展は第3会場までございますので、お早目のご入場をおすすめします。

## モダンきもの

### 一名門「大彦」の東京ファッションー

本館特別1・特別2室 10月29日(火)～12月8日(日)

明治8年(1875)に東京・日本橋に創業した大彦は、高島屋や松坂屋などと並び称された呉服の名門です。昭和の初め、2代目を継いだ野口眞造(1892～1975)は、初代が収集した江戸時代の小袖(現在は当館所蔵)を模して、染めの技術や意匠を学びます。眞造の斬新な感性は、それまでにないモダンなきものを次々と生み出し、皇室をはじめ名家の女性たちを魅了しました。近年当館に寄贈された近現代の大彦きもの、その個性的な友禅染の技術とデザインをご堪能ください。(高木結美)



#### きものを芸術の域に高めるといふ信念

訪問着「とまり舟」

野口眞造(大彦)作  
昭和10～20年代・20世紀  
渡辺眞理子氏寄贈

「きものは美術的な価値を持つ」という意識から、作品一つひとつにタイトルがつけられました

#### 構図と技法の面白さを追求して

訪問着「緑の中のくれない」

野口眞造(大彦)作  
昭和30年代・20世紀  
渡辺眞理子氏寄贈

大彦きもの見どころは構図のみならず、技法をぜひ会場でお楽しみください



染めと刺繍(拡大図)



## 令和5年度新収品

平成館企画展示室 10月1日(火)～11月10日(日)

令和5年度に新たに当館の収蔵品に加わった文化財のなかから、主な作品を展示します。「文化財の収集」は、当館の最も重要な事業のひとつです。本特集を通じて、その成果と意義をご紹介します。



#### 満開の桜が祝うドラマティックな場面

源氏物語図屏風(若菜上)

伝土佐光則筆 江戸時代・17世紀

『源氏物語』第34帖「若菜上」の名場面。六条院の庭で柏木たちが蹴鞠に興じるなか、飛び出した唐猫が御簾を開け、柏木と女三宮が目をあわせ恋に落ちる劇的な瞬間を描いています。やまと絵師土佐光則筆と伝わります。(大橋美織)

#### 北魏俑の貴重な作例

加彩官人

中国 北魏時代・6世紀  
香取敬三氏・香取亜紀子氏寄贈

副葬用の官人俑です。小冠の上に籠冠とよぶ高さのある冠を重ねています。細身で口元に笑みを浮かべる様子は北魏時代の典型的な人物表現といえますが、60cmに迫る大型品は珍しく、貴重な作例です。(市元壘)



## 遊牧のくらしとテキスタイル

### 一バローチを中心に

東洋館13室

11月12日(火)～2025年2月16日(日)

サドルバッグ 焦茶地幾何文様

バローチ 20世紀前半



## 中国書画精華

### 一宋・元時代の名品一

東洋館8室

11月12日(火)～12月22日(日)

行書虹峯詩巻

米芾筆 中国 北宋時代・崇寧5年(1106)頃



(部分)

## 円鏡に体现された壮大な世界観

## 鳥獣車馬画像鏡

中国 後漢時代・2世紀

10月1日(火)～2025年5月25日(日)

## 5室 中国の青銅器

漢時代には、来世観や宇宙観などを図像や銘文で表現した鏡がつくられるようになります。本鏡は上下左右に図像があり、左に大鳥、右に龍、上下には貴人の自家用車である車馬を配しています。車馬の後ろには四本の筋があり、馬は翼を広げ、足先は文様を区画する弧線を飛び越えています。これが天翔ける車馬であることを存分に表明しています。人びとが向かおうとする理想の世界は、遥けき天空の彼方にあると考えられていたのでしょうか。

(市元壘)



(拡大図)



## 料紙の意匠に込められた部下への想望

## 行書七言聯

曾國藩筆 中国 清時代・19世紀  
林宗毅氏寄贈

10月1日(火)～11月10日(日)

## 8室 中国の書跡 彩られた紙絹

対聯は漢詩の対句を細長い2枚の紙や板に記して、門柱や屋内に掛けたものです。清時代には文人のあいだで対聯の贈答が流行し、料紙にさまざまな意匠を凝らしました。本作品もその作例で、清末の高官、曾國藩(1811～72)が右腕の黄翼升(1818～94)に贈った対聯です。



鮮やかなピンク色の料紙には、雲気のなか鞠に戯れる9頭の獅子が銀泥で描かれています。縁起の良い図様で、なかでも9頭の獅子は君子としての9つの心がけを表します。この料紙には、部下に対する期待や敬意の念が込められたのかも知れません。

(六人部克典)

## 京都御所で実用された天皇の乗り物

## 腰輿

明治39年(1906) 宮内省(式部職)より引継  
江戸時代・19世紀

通年展示

## 便殿

宮廷の乗り物といえば、牛が牽く牛車<sup>ぎしや</sup>が印象的ですが、天皇におかれては、人が運ぶ輿<sup>こし</sup>という形式の乗り物を用いられます。天皇の輿には幾つか種類があり、担ぎ手が腰の高さまで持ち上げる簡易なものを腰輿<sup>こし</sup>といいます。敬して「御腰輿」と記し、「オヨヨ」とよびました。御腰輿は、天皇が宮中を移動されたり、火事などで避難される際に用いられました。こちらの御腰輿は、孝明天皇が安政2年(1855)の新嘗祭<sup>にいもぎ</sup>に際して用いられたものです。

(猪熊兼樹)



## 900年前に書き写された『万葉集』

## 天治本万葉集切

伝藤原基俊筆 平安時代・12世紀  
植村和堂氏寄贈

11月12日(火)～12月22日(日)

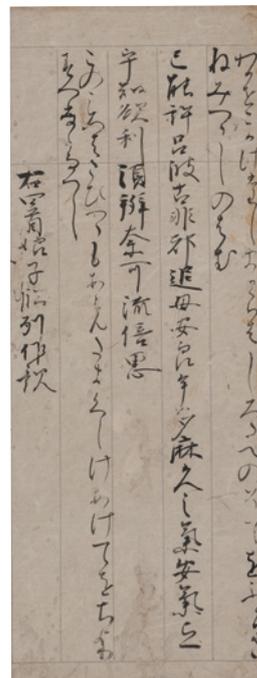
## 3室 宮廷の美術

『万葉集』は現存する日本最古の歌集です。本作品は、平安時代に書写された『万葉集』の主な古筆(桂宮本・藍紙本・金沢本・元暦校本)とあわせ、「五大万葉集」のひとつに数えられている名品です。

天治元年(1124)6月25日の年紀があることから「天治本」とよばれます。墨界がひかれた料紙に、歌2首が書写されています。

令和6年(2024)は、天治元年から900年目にあたります。この節目を記念し、本館3室では、本作品をはじめとする当館所蔵の『万葉集』の古筆を一挙にご紹介します。

(長倉絵梨子)



黒田記念館

制作のインスピレーションを与えた人物

《昔語り》の僧侶

黒田清輝筆 明治28年(1895)

10月1日(火)～12月22日(日)

黒田記念室



フランスから帰国した明治26年(1893)、黒田は初めて京都を訪れました。偶然立ち寄った清閑寺で、高倉天皇と小督局の悲恋という同寺に伝わる『平家物語』の逸話を黒田に語り聞かせたのが、本作品に描かれる僧侶です。この時の経験は、《昔語り》という大作の構想を導きます。僧侶の名は岩佐恩順、黒田は「穢い坊主」と回想していますが、《昔語り》のスピノフ的に描かれた本作からは、彼の人となり惹かれるところがあったことが伝わります。

(吉田暁子)

本館特別1・特別2室では特集「没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち」(～10月20日(日))を開催中です。

法隆寺宝物館

鮮やかな緑色の顔をした鳥の神様

◎伎楽面 迦楼羅

飛鳥時代・7世紀

金・土のみ公開

第3室 伎楽面



飛鳥時代に大陸から伝えられた仮面芸能の伎楽。中世には廃絶したため、幻の芸能ともよばれますが、現存する最古の伎楽面は法隆寺宝物館でご覧いただけます。迦楼羅はインド神話のガルダに由来し、仏法を守護する鳥の神様です。経年により彩色の多くは剥落しますが、本来は肌が緑色、両頬から垂れる肉が赤色と、目にも鮮やかな仕上げだったようです。中2階のデジタル法隆寺宝物館で展示中(～2025年1月26日(日))の復元模造もお見逃しなく。

(西木政統)

平成館

守り受け継がれてきた証

「東大寺正倉院」銘軒平瓦

奈良市 正倉院所用  
江戸時代・天保年間(1830～1844)

9月18日(水)～2025年3月9日(日)

考古展示室



天保6年(1835)に東大寺の建物として大きな改修を受けた際に葺かれた瓦です。向かって右から左に「東大寺正倉院」と篆書で表されています。正倉院は、奈良時代に光明皇太后が、東大寺盧舎那仏(大仏)に奉獻した聖武天皇の遺愛の品々を納めるため、東大寺境内に建造された宝物庫です。今日まで修理の際に屋根瓦が葺き替えられてきました。本例は一部が欠け、経年による風化がありますが、正倉院や宝物を守り伝えたことを示す大切な文化財です。

(井出浩正)



●金製耳飾

熊本県和水町 江田船山古墳出土  
古墳時代・5～6世紀

開創1150年記念

特別展「旧嵯峨御所 大覚寺  
—百花繚乱 御所ゆかりの絵画—」

2025年1月21日(火)～3月16日(日)

京都・大覚寺は、かつて皇族や貴族が住職を務めた門跡寺院としていられています。本展では歴代天皇の宸翰をはじめ、天皇家ゆかりの寺宝をご紹介します。



◎松鷹図

狩野山楽筆  
安土桃山～江戸時代・  
16～17世紀  
京都・大覚寺蔵

展示期間：  
2025年1月21日(火)～  
2月16日(日)

掛甲の武人 国宝指定50周年記念

特別展「はにわ」

10月16日(水)～12月8日(日)

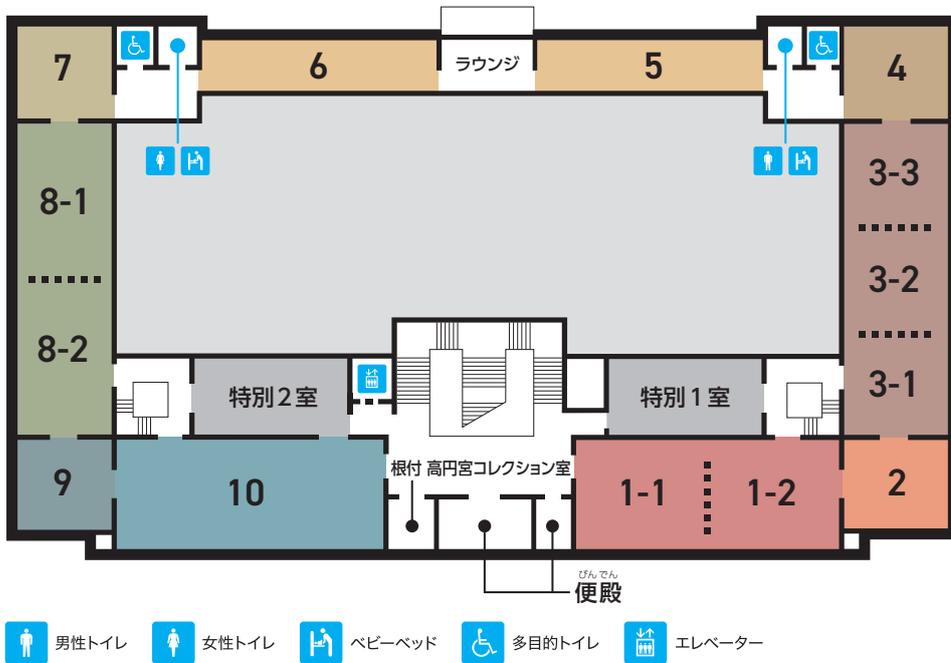
本展の1番の見どころは史上初めて5体揃う「埴輪 掛甲の武人」です。また王の副葬品である耳飾や大刀など国宝のみの展示室もあります。



埴輪 掛甲の武人

(左から)国宝 埴輪 掛甲の武人 群馬県太田市飯塚町出土 古墳時代・6世紀 東京国立博物館蔵、重要文化財 埴輪 掛甲の武人(部分) 群馬県太田市成塚町出土 古墳時代・6世紀 群馬(公財)相川考古館蔵、埴輪 掛甲の武人 群馬県太田市出土 古墳時代・6世紀 アメリカ・シアトル美術館蔵、埴輪 掛甲の武人 群馬県伊勢崎市安堀町出土 古墳時代・6世紀 千葉・国立歴史民俗博物館蔵、重要文化財 埴輪 掛甲の武人 群馬県太田市世良田町出土 古墳時代・6世紀 奈良・天理大学附属天理参考館蔵

特別展紹介(平成館特別展示室)



# 本館めぐり

## 日本美術の流れ

# 2階

### 2 国宝室

**9/10(火)-10/14(月・祝)**  
ひのきずびょうぶ  
●**檜図屏風**  
狩野永徳筆 安土桃山時代・天正18年(1590)

画面を突き抜け、うねるかのような巨木表現は、まさに桃山バロック

(右隻)

**11/19(火)-12/22(日)**  
げんりくごうほんまんようしゅう  
●**元暦校本万葉集 巻一(古河本)**  
平安時代・11世紀

(部分)

### 1-2 仏教の興隆

一飛鳥・奈良

**-10/6(日)**  
けんくきょうだんかん  
●**賢愚経断簡(大聖武)**  
伝聖武天皇筆 奈良時代・8世紀

中食慕欲其係同復勅祈城嘗  
與我合介時祈城復其合之因  
語之言日服四面提婆達同傳  
願樂而祈城答言廿二兩提婆  
達言我亦嘗願廿二兩祈城答  
言知來身者不與汝同法若多  
服必更為患提婆達言我若服  
之自足能消我身佛身有何差

**10/8(火)-2025/4/13(日)**  
さはりふたまり  
●**響銅蓋鉢**  
奈良時代・8世紀  
京都市右京区北嵯峨長刀坂町出土

被葬者を供養するために火葬墓に納められた蓋つきの鉢です

### 1-1 日本美術のあけぼの

一縄文・弥生・古墳

**-12/22(日)**  
つぼがたどき  
●**壺形土器**  
弥生時代(中期)・前2~前1世紀  
大阪府柏原市・藤井寺市船橋遺跡出土  
田村淳正氏寄贈

**-12/22(日)**  
へきぎょくせいしきやくつきばん  
●**碧玉製四脚付盤**  
古墳時代・4~5世紀  
岐阜県垂井町 親ヶ谷古墳出土  
もとは木製の脚つきの容器を模したと考えられる古墳の副葬品です

### 3-2 宮廷の美術

一平安~室町

**11/12(火)-12/22(日)**  
そうし  
●**たけくらべ草紙**  
室町時代・16世紀  
春と秋、どちらが素敵か和歌でディベート。あなたはどちらがお好きですか?

(部分)

**10/1(火)-11/10(日)**  
わかんろうえいしゅうまさげだんかん  
●**和漢朗詠集巻下断簡(平等院切)**  
伝源頼政筆 平安時代・12世紀

### 3-1 仏教の美術

一平安~室町

**-9/29(日)**  
じゅうにてんずぞうびしゃもんてん  
●**十二天图像(毘沙門天)**  
筆者不詳、原図：珍海筆  
鎌倉時代・13世紀  
原図：平安時代・12世紀  
平安時代の画僧珍海ゆかりの毘沙門天。墨線で形を写し、色註で元の彩色を示します

**10/1(火)-11/10(日)**  
あいぜんみょうおうぞう  
●**愛染明王像**  
鎌倉時代・13世紀

### 3-3 禅と水墨画

一鎌倉~室町

**11/12(火)-12/22(日)**  
しよじょう  
●**書状**  
虎関師鎌筆  
鎌倉時代・14世紀

**-9/29(日)**  
げんすおしよぞ  
●**蛭子和尚図**  
可翁筆  
南北朝時代・14世紀  
川辺でエビをつまみ上げる蛭子の姿をラフなタッチで表しています

## 5・6 武士の装い

—平安・江戸

10/16(水)-2025/1/5(日)

◎黒漆銀銅蛭巻太刀

南北朝時代・14世紀 渡辺国雄氏寄贈



10/8(火)-12/22(日)

◎黒糸威二枚胴具足

神原康政所用  
江戸時代・17世紀

徳川四天王のひとり、神原康正が用いたと伝わる甲冑。重厚で力強い造形が見どころです



## 4 茶の美術

-10/6(日)

◎青井戸茶碗 土岐井戸

朝鮮  
朝鮮時代・16世紀  
広田松繁氏寄贈



10/8(火)-12/22(日)

◎一重口水指 銘 柴庵

信楽  
安土桃山〜江戸時代・16〜17世紀  
広田松繁氏寄贈



正面の大きな亀裂と、黒く焼けた側面が力強い印象をたたえる水指です

## 7 屏風と襖絵

—安土桃山〜江戸

10/1(火)-11/10(日)

◎源氏物語図屏風(明石・蓬生)

筆者不詳  
安土桃山時代・16世紀



-9/29(日)

◎浅間山図屏風

曲楽堂田善筆  
江戸時代・19世紀

江戸時代最大級の油彩画。西洋の表現技法を学んだ田善の代表作です



(右隻)

## 8-1 暮らしの調度

—安土桃山〜江戸

-10/6(日)

◎色絵山水文瓢形向付

伊万里  
江戸時代・17世紀

伊万里焼の初期の色絵作品。瓢形の形と穏やかな色づかいが特徴的です

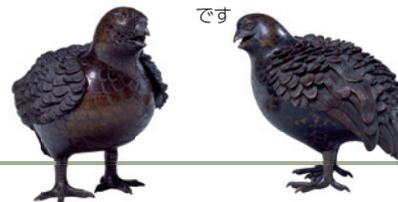


10/8(火)-12/22(日)

◎鶺鴒香炉

津村亀女作  
江戸時代・18〜19世紀

作者の津村亀女は長崎の女性鑄工。羽根の1枚まで表す写実性が見事です



## 8-2 書画の展開

—安土桃山〜江戸

書跡

10/1(火)-11/10(日)

◎一行書「老子云天長地久」

慈雲飲光筆  
江戸時代・18〜19世紀  
高木聖雨氏寄贈

江戸時代中期の僧・慈雲飲光による書。筆のかすりに渴きを感じない存在感のある筆致です



(右隻)

絵画

-9/29(日)

◎南蛮屏風

「友信」印  
江戸時代・17世紀

ヨーロッパの商人や宣教師が日本の港に到着し、船載品を陸揚げする様子を描いています

## 10 浮世絵と衣装

—江戸

浮世絵

9/10(火)-10/14(月・祝)

◎見立菊慈童

鈴木春信筆  
江戸時代・18世紀

不老不死の仙人・慈童のイメージを可憐な少女に置き換えています



10/16(水)-11/17(日)

◎近江八景・石山秋月

歌川広重筆  
江戸時代・安政4年(1857)

紫式部も参籠したという石山寺と瀬田川を秋の満月が照らします



衣装

-10/20(日)

◎振袖 白綸子地 大菊小花模様

江戸時代・17世紀

大きな花を背負うように刺繍と絞りでデザインした寛文期の若い女性の衣装です



10/22(火)-12/22(日)

◎小袖 黒綸子地 波鷺鷥模様

江戸時代・17世紀



## 9 能と歌舞伎

-10/20(日)

◎半臂 紫平絹地 蝶模様夾襦

室町時代・15世紀  
和歌山・丹生都比売神社伝来

模様を彫った板に挟んで染める夾襦が室町時代にあったことを示す貴重な例です



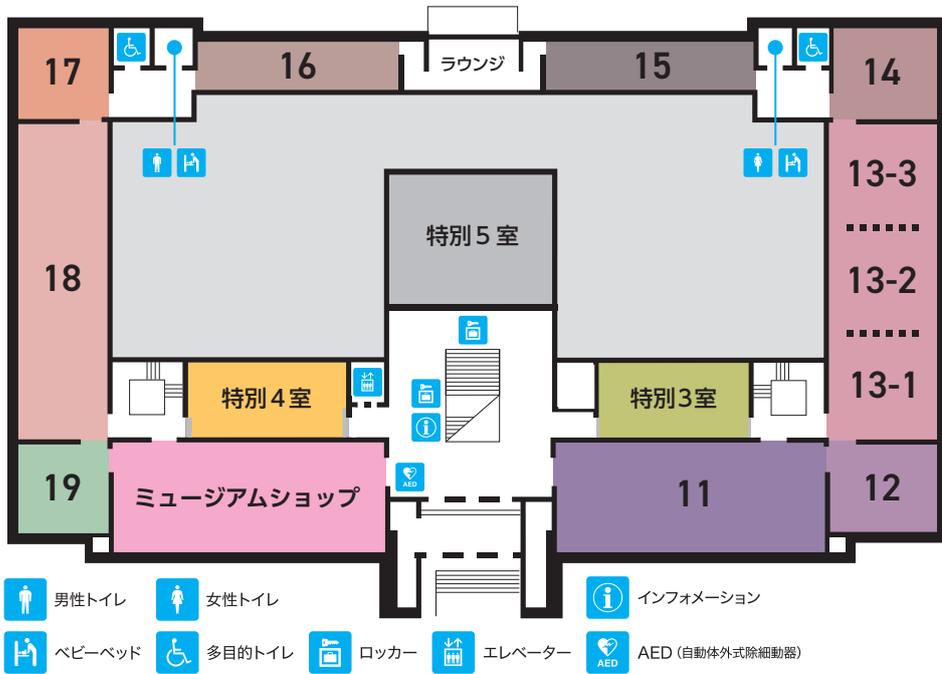
10/22(火)-12/22(日)

◎羽織 浅葱縞子地 雪輪南天模様

江戸時代・19世紀  
坂東三津江所用  
高木キヨウ氏寄贈

大名や殿様役を演じる際につける衣装。豪華な刺繍は南天で、難を転ずる吉祥模様です





# 本館めぐり

ジャンル別展示

## 1階

### 13-1 金工

-9/29(日)

#### 蟹形文鎮

金龍斎寿道作  
江戸～明治時代・19世紀



10/1(火)-12/1(日)

#### 砂張建水

中国  
明時代・15～16世紀  
広田松繁氏寄贈

茶道具として好まれた、銅・錫の合金である砂張製の建水です



### 12 漆工

9/3(火)-12/1(日)

#### ◎花樹鳥獸時絵 螺鈿聖籠

安土桃山～  
江戸時代・16～17世紀

欧州向けの漆器。漆地にスペインの画家が油彩でキリスト像を描いています



9/3(火)-12/1(日)

#### 花弁漆絵片口

安土桃山時代・16世紀



### 11 彫刻

10/1(火)-12/1(日)

#### 阿弥陀如来立像

(善光寺式三尊像中尊)  
鎌倉時代・文永2年(1265)



#### 地藏菩薩立像

鎌倉時代・13世紀

切れ長な目やくっきりとした鼻筋など、明快な顔立ちが魅力的な鎌倉時代の優作です

### 13-2 刀剣

-12/1(日)

#### ●短刀 栗田口吉光(名物 厚藤四郎)

栗田口吉光 鎌倉時代・13世紀

藤四郎こと吉光の傑作。分厚い刀身が名前の由来です



-12/1(日)

#### ◎太刀 長船兼光

長船兼光 南北朝時代・延文4年(1359)



### 13-3 陶磁

9/3(火)-12/1(日)

#### 色絵紅葉賀図茶碗

仁清、[仁清]印  
江戸時代・17世紀  
山本富子氏・山本賢二氏寄贈

源氏物語の一場面を、人物なしに描く「留守模様」で表しています



9/3(火)-12/1(日)

#### 色絵葡萄栗鼠文瓢形水注

伊万里(柿右衛門様式)  
江戸時代・17世紀



## 16 アイヌと琉球

### 琉球

9/25(水)-10/27(日)

ろうかくじんぶつからでんりょうしすずりばに  
楼閣人物螺鈿料紙硯箱

第二尚氏時代・19世紀  
石黒久義氏寄贈



### アイヌ

10/29(火)-12/1(日)

チウカウカプ

北海道アイヌ 19世紀  
徳川頼貞氏寄贈

綿木綿を合わせた拵地にアイヌ特有の模様を重ねた首長の着物です



## 15 歴史の記録

特集 江戸時代の図譜文化  
—堀田正敦編「禽譜」とその魅力

9/18(水)-10/6(日)

きん ず りん きん  
禽譜 林禽2

堀田正敦編  
江戸時代・18～19世紀写

江戸時代につくられた鳥類図鑑です。長崎出島で写生された外国産の鳥も描かれています



(部分)

10/8(火)-12/1(日)

きゅうしゅうえん かい ず たい ず  
◎九州沿海図(大図)  
第十 鹿児島

伊能忠敬作  
江戸時代・19世紀



## 14 特集

能面に見る写しの文化

9/3(火)-10/20(日)

のう めん でんやまんぼ  
◎能面 伝山姥

伝赤鶴作  
南北朝時代・14世紀  
梅若家伝来



やきものを彩る金と銀

10/22(火)-12/1(日)

いろ えいげつ ばいず ちやうば  
◎色絵月梅図茶壺

仁清、「仁清」印  
江戸時代・17世紀

薄く塗ったり、厚く盛り上げたり、モチーフによって金彩、銀彩に工夫を凝らした様子をみて取ることができます



## 18 近代の美術

-10/27(日)

ろう えん  
◎老猿

高村光雲作  
明治26年(1893)  
シカゴ・コロンブス世界博覧会事務局寄贈



(右隻)

10/29(火)-12/1(日)

びやっこ  
白狐

下村観山筆  
大正3年(1914)

落ち着いたトーンの景色と白狐が織りなす、叙情豊かな観山の代表作のひとつです

## 17 保存と修理

文化財はさまざまな素材や技法で構成されています。それらを調査分析し、日頃の状態確認を行うことで、劣化の早期発見と適切な対処方法の判断に繋がります。「状態調査と分析」のコーナーでは、文化財の健康診断の方法をご紹介します。私たちにとっての健康診断と同じ視点で、本コーナーをご覧いただければ幸いです。



「状態調査と分析」コーナーの様子。文化財にも日々の健康診断が必要です

## ミュージアムショップ

ミュージアムショップでは、当館の出版物をはじめ、収蔵品をもとにデザインしたミュージアムグッズを販売しています。



ぬいぐるみ はにわ犬

2,970円(税込)

当館で人気の埴輪がぬいぐるみになりました！口から出た舌、巻いたしっぽなど作品を忠実に再現しています

## 特別4室 日本文化のひろば (体験型展示スペース)

日本文化の魅力を遊びながら体験できます。浮世絵のつくり方をスタンプで体験したり、日本のよろいを直接じっくりみたり、触ったりできます。展示室で本物の文化財をみる前や、みた後に、ぜひお立ち寄りください。きっと日本文化をより楽しめるはずですよ。



海外からのお客様にもわかりやすく、お子様に人気の展示室です

## 19 みどりのライオン 体験コーナー (教育普及スペース)

このコーナーには、手で触れて感じる本館のフロアマップ「触知図」があります。各展示室の形や素材は、展示テーマや作品から着想を得てデザインしており、それぞれに意味があります。日時によってボランティアがいますので、わからないことは気軽に質問いただき、会話を楽しみながら「触知図」のヒミツを探ってみてください。



素材に触れることで、展示室の構成を確認することができます

# 顕微鏡でみる「画絹」の世界

絹は、東アジアにおける、絵を描くための伝統的な素材です。絵画制作のために特別につくられた絹を「画絹」とよびます。画絹はどのような糸を何本使い、どのように織られているのでしょうか。時代や地域、画家による違いはあるのでしょうか。当館では、東京文化財研究所と共同で、デジタル顕微鏡を使った画絹の調査・公開を進めています。

私たち絵画の研究員は、作品理解の重要な手がかりとして画絹にも注目して調査を行っています。画絹の観察は、以前はルーペを使い肉眼で観察するしかなかったのですが、現在ではデジタル顕微鏡を使って拡大写真を記録にとり、これをもとに糸の幅や高さの数値を算出することが可能になりました。

しかし、このような調査の実施件数はまだ少なく、広く公開もされていません。このため当館では、2019年より東京文化財研究所と共同でデジタル顕微鏡を使った所蔵作品の画絹の調査を進めており、ようやく今年、その成果をデータベースで公開することができました。展示室ではなかなかみることができない名品の画絹の緻密な世界を、データベースを通じてお楽しみいただければ幸いです。（植松瑞希）



デジタル顕微鏡を使った調査の様子



伊勢物語八橋図  
尾形光琳筆 江戸時代・18世紀  
展示予定はありません



伊勢物語八橋図の画絹の200倍拡大画像



東博所蔵品画絹データベース

## 東博のお仕事

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。当館の多様な活動に関わる人たちの仕事を、さまざまな角度からご紹介します。

### 2 調査研究



三笠景子 東洋室長(東洋陶磁)

趣味は落語と狂言鑑賞。次はいつの公演を狙うか、スケジュール帳と日々らめっこしています。

## 世界が注目! 焼き物のかけら、陶磁器研究の先進事例をリサーチ

本館や東洋館で、時々陶片を展示しているのをご存じでしょうか。当館には日本や中国各地の窯址の陶片資料が大量に収蔵されており、その断面や細部の様子は収蔵作品の制作背景や工程を探る大きな手がかりとなっています。

最近では中国でも陶片資料の重要性が注目を集めています。磁器生産で世界をリードした江西省景德镇の御窯博物院では、陶片1片ずつ科学分析してデータを集積する「古陶瓷基因庫」(陶片のDNAバンク)プロジェクトがはじまっています。当館の陶片も今後の陶磁器研究に資することができるよう、展示公開の継続に努めたいと考えています。



景德镇御窯博物院長 翁彦俊先生  
博物館と研究所、遺物管理所をそなえた御窯博物院は景德镇窯研究の拠点となっています

特集  
やきものを彩る金と銀  
10月22日(火)~12月1日(日)  
本館14室(→9ページ)

五彩金襴手花卉文水滴

中国・景德鎮窯  
明時代・16世紀  
若州酒井家伝来 広田松繁氏寄贈

明時代に景德鎮窯で民間向けに焼かれた金襴手。若州酒井家に伝来した貴重な作品です



答えは…



重要文化財 **埴輪 盛装女子** 通年展示 平成館考古展示室  
群馬県伊勢崎市豊城町横塚出土 古墳時代・6世紀

## 埴輪に表された、古代日本の衣装を紐解く

人びとがどんな服を着ていたか? は考古学の苦手分野のひとつです。したがって人物埴輪のような衣装を表現した造形品は貴重ですが、肝心の色が分かりません。埴輪の表現を理解するためには、飛鳥時代以降の服飾史の知識が不可欠です。そこで当館客員研究員の沢田むつ代氏にこの埴輪の衣装について聞きました。

この埴輪は島田髻を結び耳飾・首飾・腕飾で装った盛装の女子です。丸襟の上衣は袖なしで上下2ヶ所を紐で留めています。奈良時代の伎楽装束を参考にすると、彼女は無紋の筒袖の袍の上に、ベストのような背子あるいは別の裂をつけ足して丈を長くした半臂のような衣服を着ていたようです。袖口の2本の刻線は、奈良・中宮寺所蔵の天寿国繡帳の人物のように色の違いを表しています。また、上着の裾や裳の裾に引かれた線も同様で、異なる色の織物で縁取っているかのようにみえます。青海波風模様が描かれていますが、太刀や腰飾り等の魚佩の鱗文や半円の幾何学文の可能性もあります。死装束とされる左前ですが、このような人物埴輪は珍しいものではないようです。

下半身には、襜のあるスカート(裙、または裳)をはき、褶を着けています。褶とは男子の袴や女子の裳の上に着け、本作品では腰のあたりに引かれた横線で違いが表現されています。日本書紀には冠位十二階が施行された2年後の推古13年(605)に、「皇太子はじめ高官は褶を着用せよ」との命がくだされます。本作品の制作時期は6世紀後半頃と考えられ近い時期です。あたかも芸術家がデッサンするように、盛装し儀式に参列する女子の全身をリアルに写し取ったものかもしれません。

ところで、当時の日本人(倭人)を描いた作品として「職貢図」が有名です。現本は失われていますが模本には南朝梁に朝貢した外国使節が表されています。この中の倭国使の姿は頭や腰に布を巻いて裸足で合掌し、ぱっとしません。もしも、本作品のような人物埴輪がなかったら、当時のファッションのイメージは今とは大きく異なっていたはずで、傑作をつくり出した古墳時代の埴輪工人には感謝しかありません。平成館2階特別展示室では、特別展「はにわ」(→5ページ)を開催します。あわせてご覧ください。(河野一隆)

# INFORMATION

インフォメーション

## ●開館時間

9時30分～17時00分

毎週金・土曜日、11月3日は9時30分～20時00分

黒田記念館は9時30分～17時00分

※入館は閉館の30分前まで ※9月27日(金)、9月28日(土)、10月25日(金)、10月26日(土)は19時まで

## ●9・10・11月の休館日情報

◎9月2日、9日、17日、24日、30日

◎10月7日、15日、21日、28日

◎11月5日、11日、18日、25日

※11月5日(火)は掛甲の武人 国宝指定50周年記念 特別展「はにわ」(平成館特別展示室)のみ開館します。

※特別展、総合文化展、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイト等をご覧ください。

## ●休館・閉室情報

12月17日(火)は設備保守点検のため、臨時休館します。

12月23日(月)～2025年1月1日(水・祝)は休館します。また、展示室の一部を以下の通り閉室します。

本館11室：12月2日(月)～2025年4月7日(月)

本館12～18室・特別4室：12月2日(月)～2025年1月1日(水・祝)

本館19室：12月2日(月)～2025年2月3日(月)

## ●総合文化展観覧料金

一般1,000円、大学生500円

障がい者とその介護者各1名は無料。満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

特別展などの開館日・開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。



東京国立博物館  
ウェブサイト

<https://www.tnm.jp/>

## ●10月5日(土)は留学生の日です

日本で学ぶ留学生、ALT(外国語指導助手)、およびその同行者(1名まで)は総合文化展が無料となります。また、やさしい日本語による展示室ガイド、根付をつくるワークショップなど、館内各所でさまざまなイベントも実施します。お誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。

## ●あそびば☺とーはく！

11月8日(金)～12月8日(日)本館特別5室

小学生以下のお子様が、遊びを通して博物館に親しんだり、保護者の方がひと息ついてリラックスできる場所です。大きな古墳を体感したり、ボールプールの遺跡で体を動かして、お子様と一緒に思いきり遊んでください。会場内には授乳・おむつ替えスペースもあります。※夜間開館は行いません。

◎料金：総合文化展観覧料金でご入場いただけます。

※対象：小学生以下のお子様とその保護者。必ず保護者同伴でご利用ください。

※同時開催の特別展「はにわ」(→5ページ)や、有料イベントなどは別料金。

※人数および時間制限があります。詳細は、当館ウェブサイトでご確認ください。

## ●トーハクキッズデー

11月24日(日)のキッズデーでは、切手の博物館(東京・目白)の大人気ワークショップ「体験! 切手はり絵」(事前申込制)や、親子で当館を楽しむための「ウェルカムガイド(リーフレット)」の配布をはじめ、子ども向けプログラムを予定しています。詳細やお申込み方法については、決まり次第当館ウェブサイトに掲載します。



今年5月に実施した「子どものためのギャラリートーク」の様子

## ●託児サービスのご案内

正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制)。当日空きがあれば、予約なしでご利用いただくことも可能です。「あそびば☺とーはく！」会期中は、すべての土・日・祝日に実施します。



## ●トーハクボランティアデー2024

トーハクボランティアデーを11月30日(土)・12月1日(日)に開催します。各種ガイドツアーやスライドトークなど、ボランティアが行っている活動を2日間に凝縮してご紹介いたします。



ボランティア活動の様子

## ●賛助会のご案内

東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人と団体向けに、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しています。

## ●特別展チケットプレゼント

開創1150年記念 特別展「旧嵯峨御所 大覚寺一百花繚乱 御所ゆかりの絵画」(→5ページ)の無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は12月10日(火)必着。

\*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース9-11月号」プレゼント係

